

17 高齢視覚障害者に対する訪問訓練の実施状況とその効果

自立支援局 視覚機能訓練課

吉田洋美、白浜一、小出千鶴子、川添一郎、中郡史暁、
佐藤静、中村咲子、河原佐和子、高平千世、鈴木愛子

【目的】

2011年全国在宅障害児・者等実態調査結果によると、視覚障害者（手帳所持者）数31万6千人のうち、65歳以上の視覚障害者は約7割を占めている。

高齢者の多くは必要に応じて介護保険を利用するが、高齢者の支援機関に視覚障害リハビリテーションの専門職がいることは皆無に等しい。

高齢視覚障害者に対する視覚障害リハビリテーションの必要性と支援体制を検討するため、当センターでは平成26年度から高齢視覚障害者に対する訪問訓練を実施している。本発表では、高齢視覚障害者に対する訪問訓練の実施状況と、その効果の分析状況について報告する。

【対象と方法】

対象者は、平成26年4月から平成30年3月末までに当センター自立訓練を訪問で利用した65歳以上の視覚障害者19名（男性5名、女性14名）とする。

平均週1回訪問にて訓練を行い、評価の指標として、PGCモラルスケール、終了時アンケートを実施した。

【結果と考察】

利用月数は、平均3.9ヶ月であった。日常生活訓練に関する訓練が最も多いが、単独歩行や情報機器の操作に関するニーズも多くみられた。PGCモラルスケールでは、訓練介入による主観的幸福感の向上が示唆された。